

Title	高知県幡多方言話者のスタイル切換え
Author(s)	高木, 千惠
Citation	阪大社会言語学研究ノート. 2002, 4, p. 55-72
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/23195
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

髙木 千惠

1. 調査の概要

1.1. インフォーマント情報

〔表 1〕

	年齢	職業	居住歴
SA	76	農業	0-18: 高知県宿毛市、18-19: 中国(関東州)、19-21: 中国(満
			州)、21-:高知県宿毛市
SC	77	石屋	0-21: 高知県宿毛市、21-22: 高知市朝倉、22-: 高知県宿毛市
YA	16	学生	0-2:東京都目黒区、2-16:高知県宿毛市、16-:愛媛県大洲市
YC	16	学生	0-16: 高知県宿毛市
YF^{*1}	26	学生	0-15:京都市左京区、15-23:東京都江戸川区、23-:大阪府池田

^{*1} YF は当該方言が全く話せない。

1.2. 談話情報

〔表 2〕

話者	話者間の関係	収録時間	談話の展開
SA-SC	親しい同年代	30 分	SA が多く発話
SA - YA	祖父と孫	30 分	YA が質問、SA が答える
SA-YF	初対面	30 分	YF が質問、SA が答える
YA - YC	親しい同年代	35 分	YC が多く発話
YA — YF	初対面	30 分	YF が質問、YA が答える
	SA-SC SA-YA SA-YF YA-YC	SA-SC 親しい同年代 SA-YA 祖父と孫 SA-YF 初対面 YA-YC 親しい同年代	SA-SC 親しい同年代 30分 SA-YA 祖父と孫 30分 SA-YF 初対面 30分 YA-YC 親しい同年代 35分

2. 結果および考察

2.1. 自称詞

2.1.1. 結果

〔表 3 自称詞*1〕

		老(SA)			f (YA)	
	対老	対若	対調	対若	対老	対調
ワタシ系*2	-	• .	10	-	-	
ワレワレ	-	-	1	-	-	
ワシ	22	- .	5	=	. -	-
親族名称*3	-	9		• . ·		
ボク	-	-		-		21
オレ	-	•	-	36	1	-

^{*1} 表は、単数複数の区別なく集計してある。

^{*2} ワタシ系には、ワタシとワタクシが含まれる。

^{*3} 親族名称はオジーチャン・ジーチャン

- (1) SA は、《対老》ではワシのみ、《対調》ではワシ・ワタシ(およびワレワレ) という切換えを行っている。《対若》において、人称代名詞ではなく親族名称 ((オ) ジーチャン)を用いていることが特徴的である。
- (2) YA は、《対若》《対老》:《対調》=オレ:ボクという、カテゴリカルな切換えを行っていることが見て取れる。

2.1.2. 解釈

(a) 幡多方言では、自称詞としてワシのほかにオラがあるが、SA にはオラの使用が見られない。これは、「オラは目下・同輩に使い、ワシは目上に使う」という規範にしたがっているためと考えられる。(談話の中にもそのような言及が見られる。)

[1] 自称詞の使い分けについて

104SA:うー あの一、兄、兄とか 姉には わし。(YF:ふん)妹には おら。(YF:ふん ふん ふん)*** 下のもんには 目下のもnに 自分よりか ひたのものには おら。(YF:おら。は一)今の人は 俺じゃ 言わね。(YF:はい)で 今の奴は 上も 下も 俺じゃけん。
(YF:俺、はい)nで、兄から 姉さん、親に対ひては わし。(YF:ふん)うん、こ ゆー、ことです**ね。

(b) 《対調》で方言形ワシの使用が若干見られるが、オラではなくワシを使用することで「疎」の相手 YF を丁寧に待遇しているといえる。目上に使うワシがワタシの変異形と内省されている([2] 参照)ことからも、ワシの待遇的価値の高いことがうかがわれる。

[2] 自称詞の使い分け

098SA:ま ここらでは 親に だいたい わしじゃ と わ、こら わし ゆわーねー。(YF:は は ー)わし と ゆー も ことー いーますよ?

099YF:はい。

→100SA:ま、あれや、わたし とゆーたら ほんとでしょーけどねー。 〔老ー調〕

- (c) SA は、自分の孫である YA との談話《対若》において、自分を示す形式として オジーチャン、ジーチャンという親族名称を用いているが、このような用法は 対者が目下であれば(孫以外の人間に対しても)行われる。
- (d) SA における自称詞形式の切換えの指標は、同一方言を話すかどうか(ワタシ系・方言形)、対同一方言話者であれば目上か目下(同輩)か(ワシ・オラ・(オ)ジーチャン)、という2つの軸が関わっているといえる。SA の切換えは〔表 4〕のようであると予想される。

〔表 4 SA における自称詞形式の切換え〕

· .	対 同一方言話者	対 他方言話者
対 目	上 ワシ	
対 同	む オラ	ワタシ系・ワシ
対 目	下 オラ・(オ) ジーチャン	

(e) YA はワシ、オラという方言形を全く使っておらず、標準語と同形であるオレ、ボクの2形式をカテゴリカルに使い分けている。1例しかなかったが、身内の場合には目上に対してもオレを使っており、SA とは使い分けの軸が異なるようである。

2.2. 対称詞

2.2.1. 結果

〔表 5 対称詞*1〕

		老(SA)		- 1 A.J.	若(YA)	
	対老	対若	対調	対若	対老	対調
アンタ	•	•	1	1	-	-
親族名称*2	-	• •	-		9	-
名前+親族名称*3	1	-	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		- · · -	- ·
名前系*4	-	6	-	12	-	•
オマエ	-	-	.	6	<u>-</u>	-
オンシ*5	-	(2)	•	•	<u>-</u>	
ワン*5	(1)	-		- i	<u>-</u> - 1	· · ·

^{*1} 表は、単数複数の区別なく集計してある。

[3] (せっかくなので YF たちと一杯飲みたいという話になって)

202SA: そーよ (SC: あー) えーけんど、 車へ $\{ \xi \}$ 乗っち 運転手は 飲むなん、 $\frac{h}{h}$ だけ 飲め つーわけにも いかんし。 もー あれ いったん持っちこざったー。 〔老ー老〕

[4] 戦時中の話

82SA: 一番 あれなのは、(YA:うん、)あー。わり一ことが あったら、あのー しよ と ゆーこと せら、せんときには、「<u>おんし</u>らみたいなものは、ごせん[五千円]で、(YA:うん、)なんぼ でも 来るぞ」と ゆーて、びっちょー、は、びっちょ とぶがよ。(YA:あー。)「<u>おんし</u>ら みたん ごせんで なんぼでも、なんぼでも 来る」と。 [老一若]

2.2.2. 解釈

(a) YA は《対若》ではオマエ、名前系、アンタという複数の形式で YC に言及しているが、《対老》においては親族名称 (ジーチャン) だけが用いられている。

^{*2 「}親族名称」はジーチャン。

^{*3 「}名前+親族名称」は「SC兄」という形式を指す。

^{*4 「}名前系」には、「名前のみ」「名前+チャン」が含まれる。

^{*5} オンシ、ワンの使用例が () 付きになっているのは、話し相手 (SC・YA) に対して用いられたものではないため。([3][4]参照)

目下の者が親族名称によって身内目上を呼称することは、他の地域社会でも行われていると考えられる。

- (b) SAは《対老》でSCのことを「SC兄」と呼んでいるが、身内以外の目上に対して親族名称を用いることは当該方言域では頻繁に行われている。
- (c) SA は《対調》において YF に対してアンタを用いているが、対称詞としてワン (あるいはオマエ) という形式があることを考えると、SA にとっては、アナタ系であるアンタの持つ待遇価値は高いのかもしれない。それに対して YA は 《対若》でアンタを用いており、YA にとってのアンタ・オマエには待遇差がない可能性もある。

2.3. 他称詞 (親族名称)

2.3.1. 結果

〔表 6*1〕

			老(SA)			若(YA)	
		対老	対若	対調	対若	対老	対調
父親	チチ*2	-	-	-	-	-	(1)
	(オ)トーサン	, -	-		- 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1	_	9
	オヤジ	1 .	. -	.	-	<u>-</u>	1.
母親	ハハ*2	-	-	-	_	· · · · · · ·	(1)
	オカーサン	-	_	-	- · ·	-	4
	オカー	2	-	- ,		- · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
祖父	オシ゛ーチャン	-		-	-	-	4
祖母	オハ゛ーチャン	-	2	-		-	3
	ハ゛ーチャン*3*4	-	8	-	-	12	· -
兄	アニキ	-	-			•	1

^{*1} この表には、表 3.5 で示した呼称としての親族名称は含まれていない。

(1) 複数の場面に出ている形式が少ないので切換えの有無を的確にとらえることは 難しいが、YA において《対老》ではバーチャン、《対調》ではオバーチャンと いう場面ごとの切換えが見受けられる。

2.3.2. 解釈

(a) YA は《対調》でチチ・オトーサン・トーサン・オヤジという複数の形式で父 親について言及しているが、談話からは、どの形式を用いるかで躊躇している

^{*2} YA のチチ、ハハの実数が () に入っているのは、YF ではなく調査者(筆者)に対して用いられたものであるため。(〔6〕参照)

^{*3 「}祖母」のバーチャンには曾祖母 (YA:ヒーバーチャン) も1例含めた。

^{*4} バーチャンには、近所の老女を指して言った例が SA、YA それぞれに 1 例ずつ含まれている。

様子が窺われた。

[5] 趣味

329YF: (YAの趣味が読書と聞いて)えー ここにある本は じゃー 全部、

→330YA: あー ここは、全部、あの、と あの、親父のですね。

331YF:あ お父さんの。

332YA:あ はい。

[若一調]

- [5] は父親について言及する最初の部分の会話だが、「ト」と言いかけてからオヤジを使用している。あらたまった場面には(オ)トーサンという形式は相応しくないということを知識として持っているものの、どのような形式によって父親に言及すべきか、迷っているようであった。オヤジの使用はこの1例のみで、その後、YFとの会話では(オ)トーサンだけを使用している。[5] 330YAの直後に331YFがオトーサンを使用したことで、(オ)トーサンを使用してもよいと考えたのかもしれない。
- (b) 上記(b) と矛盾するが、会話収録後のフェイスシートの記入の際には、調査者(筆者)に対してチチ・ハハということばを躊躇なく使っていた([6] 参照)。
 - [6] 調査者(YR)がインフォーマントのフェイスシートを記入しているところ

557YR: (YA の居住歴を確認して)あ、 そーですか。 はい。 押ノ川。 ご両親の、 ご出身 は。

558YA: えっと、チチが 東京で、ハハが ここです 宿毛です。

559YR: あ、はい。 緑ヶ丘のご出身ですか? あの、(YA: あ いや、) お父さん。

560YA: それは、 わからないですけど。

[若一調]

[5] でどのような形式によって父親に言及すべきか迷っていた YA が、YR に対してなぜ自然にチチ・ハハを使用したのかは定かでないが、そこには親疎の軸が関わっている可能性がある。YR・YF とも YA にとっては初対面だが、20分ほど話をする中で YF とは次第に打ち解けている。推測の域を出ないが、疎から親に近づきつつある YF にチチという改まった形式を使ってよいのかどうかと迷ったのに対して、ほとんど話らしい話をしていない YR は疎と位置付けられる人間であったためにチチ・ハハが自然に使われたのではないだろうか。あるいは、フェイスシートの記入という、YFとの会話とはまた異なる場面であったことが影響している可能性もある。

2.4. 原因・理由

2.4.1. 結果

〔表7 接続助詞〕

		老(SA)			若(YA)	
	対老	対若	対調	対若	対老	対調
ンデ	-		* . · ·	-	-	37
カラ*1	1		19		-	1
ケン*2	46	•	7	28	1	-

- *1 SA《対調》のカラのうち丁寧体と共起していたのは 19 例中 8 例。
- *2 SA 《対調》において、方言形式の話をしている箇所で例文としてケンを使用しているところが 2 箇所あったが、それは数に含めていない。また 7 例のケンのうち丁寧体と共起していた例が 2 例あった。
- (1) YA《対調》ではンデの使用数が突出している。1 例だけ見られたカラの発話は 次の通り。

[7] 趣味

322YA:や、と ほかの小説も、ちょっと あの、お 読むんですけどー、(YF:うん)や ばらつき は あるんでー、(YF:あー)い、ま 一番好きなのは 三国志ですかね。

323YF: ほーーー。なんで。

324YA: やー、なんで、や おもしろいー、<u>から</u>ー。わからないですけど{笑} 〔若-調〕

〔表 8 接続詞〕

	若(YA)					
	対老	対若	対調	対若	対老	対調
ダカラ	-1 4.		3	-	-	6
(ソレ)ヤケン	-	-	-	8	-	3
(ソン/ホン)シ゛ャケン	20	-			1	- ·

2.4.2. 解釈

● 接続助詞

- (a) SA における原因・理由の接続助詞カラ/ケンの切換えは連続的で、《対調》に もケンの使用が9例ある。ケンが丁寧体と共起可能であることも一因としてあ るだろう。
- (b) YA は、ケンとカラ・ノデをカテゴリカルに切換えているようである。丁寧体と共起できるかどうかではなく、その形式が方言形である(と意識されている) かどうかが切換えの指標となっている可能性がある。
- (c) YA にカラよりもノデの使用が多いが、ノデの方が丁寧な形であるという意識があるのかもしれない。ノデによる中途終了発話も多かった。(17 例)

● 接続詞

(a) 接続助詞ではケン・カラをカテゴリカルに切換えている YA だが、接続詞では 《対調》に方言形ヤケンの使用が 3 例見られる。3 例はいずれも Hedge のよう な役割を担っており、発話内容に注意が向いていて使用形式への注意が散漫に なった結果のように受け取れる。([8][9]参照)

[8] ことばのちがい

027YF: あー 愛媛って やっぱ 言葉 違います 宿毛と。

028YA:あー、 や、 宿毛は 別に そんなに あんまり、ちごー、てない(違うてない) と ちょっと 違うかもしれませんけど、

029YF:は一、え、例えば ん、ちょっと って ゆーと どんなんかな、

→030YA: や、と ゆー あのー ちょっと 小西[学校名]は なんか、(YF:ふん) いろいろ ほ かのところから 集まってくるんで あの、(YF:ふん) いろいろ、(YF:ご、ごちゃま ぜ) あー や、 <u>やけん</u>、あの 秋葉[地名]も おればー 他の、県も おるんで、(YF:はー) あ <u>やけん</u> ちょっと、大洲市の人は そんな いないんですよ。(YF:あー はー はー) んで、大洲市の人は一、別に こっちと あんまり 変わらない と思いますけど。

[9] 両親の出身

474YA:あー あの一、お、あの一 お父さんの一、(YF:ふん) あの 親戚と一、が一、 と一、が一、あの一、親戚、お父さん一は 一応 生まれは一、父さん あの 父 さんの、こ あん 桐原[地名]ねん、なんですよ。(YF:はあ はあ) それで、そ、 それから一、あの その、父さん、お父さんの一、あ一 <u>やけん</u> 僕から 言うた (ら) おじーちゃんが一、(YF:は一) 東京に 行って一、(YF:て、) それで、父さ んが 生まれたんで (YF:うん) いちお 里は、こっちなんで 父さんも 一応は。 (YF:ふん ふん) で そこで、お見合いですかね。

2.5. 逆接

2.5.1. 結果

〔表9 接続助詞〕

		老 (SA)			若(YA)	
	対老	対若	対調	対若	対老	対調
ガ	11	1	23	-	-	-
ケレド	-		3	-	- * .	- -
ケド	2		5	32	-	30
ケンド	32	2	20	. • .		•

[表 10 接続詞]

		老 (SA)			若(YA)	
	対老	対若	対調	対若	対老	対調
ガ		-	1	 -	-	
シカシ	2	<u>-</u>	-	- ,	• 13	<u> </u>
デモ	-	-	- 1	•		-
(ヤ)ケド	-	- ·		13	· -	1
(ジャ)ケンド	¹ 2 7 7		, . .	-		

2.5.2. 解釈

- (a) SA の場合、原因・理由の形式と比べると、逆接の接続詞・接続助詞が切換え の指標となっているかどうかは不明である。
- (b) YA は《対若》でも標準語と同形式のケドしか使っていないので、逆接の接続 詞・接続助詞は切換えのマーカーとはいえない。

2.6. 動詞否定形式

2.6.1. 結果

〔表 11〕

		老(SA)			若(YA)	
	対老	対若	対調	対若	対老	対調
マセン	-	•	1	_	•,	3
ナイ	-	-	- ,	· · ·		14
$^{\prime} \mathcal{V}^{*_1}$	25	-	28	43		1
ネー	<u>-</u>			2		-

^{*1} 過去・非過去の区別なく集計してあるので、方言形否定過去形式のザッタ・ラッタもンに含めている。ザッタ・ラッタの使用は SA《対老》に 7 例、ンカッタの使用は YA《対若》に 10 例見られた。

2.6.2. 解釈

- (a) SA は《対老》《対調》どちらの場面でも方言形否定辞ンを専用しており、否 定辞が SA にとって切換えのマーカーとなっていないことがわかる。
- (b) YA は《対若》では方言形否定辞ンを、《対調》では共通語形否定辞ナイ・マセンを使用している。《対調》に1例だけンの使用があるが、次のような例である。
 - [10] お年寄りと若い人のことばのちがいについて

188YA: やっぱ 昔の人なんでー、なんか 言い方が 古くさい ってゆーか。

189YF:はー はー。どんな言い方。

190YA: どんな言い方、ん なんか、なんて ゆーたら、いーんでしょーかね、(YF:は) {息を吸って} や おばーちゃんとかも、なん、ちょっと、昔風ってゆーか ま、あの、物の、(YF:

はい)あの この 茶碗とかでも、(YF:はい)僕らは 茶碗 て ゆーけど(YF:はい)なんか、例えば、あの、おばーちゃんやったら なん 茶碗 て <u>言わん</u>と なん 昔風にーゆー みたいな感じで。 [若一調]

ここでンが使用された要因としては、

- ① 接続詞の例〔8〕〔9〕と同じく、発話内容に意識が集中し、使用形式への 注意度が低くなった、
- ② ~セント (~しないで/せずに)の場合、「方言形:標準語形=ン:ナイ」 という単純な対応となっていないため、他の否定表現と比べて使用者へ の記憶の負担が大きい、

の2点が考えられる。いずれにせよ〔表 11〕の結果より、YA が、当該方言を 話さない話者に対しては標準語形式を用いるよう心がけていることが窺える。

2.7. の (だ)

2.7.1. 結果

〔表 12 の (だ)〕

		老 (SA)			若(YA)	
	対老	対若	対調	対若	対老	対調
ノ/ン {デス/ダ/ジャ} *1 -	*	•	1	2	-	35
ガ{デス/ヤ/ジャ/φ}	46	7	5	136	9	-

^{*1} YA 《対調》のノ (ン) はすべて丁寧体と共起していた。

〔表 13 形式名詞〕

		老(SA)			若(YA)	
	対老	対若	対調	対若	対老	対調
1	1	1	3	 1	1	1
ガ	23	-	2	15		1

2.7.2. 解釈

- (a) 〔表 12〕では、方言形ガの使用は SA では連続的・YA ではカテゴリカルとなっており、原因・理由の接続助詞のケースと似ている。
- (b) YA《対調》のノ(ン)はすべて丁寧体と共起している。若年層には、方言形は 丁寧体と共起しにくいという意識があって、それが切換えの要因となっている のかもしれない。

2.8. 間投助詞・終助詞

2.8.1. 結果

〔表 14 間投助詞〕

•		老(SA)			若(YA)	
	対老	対若	対調	対若	対老	対調
ネ(ー)	2	15	50	30	10	-
ノ(一)	39	• •	-	-		•

[表 15 終助詞]

		老(SA)			若(YA)	
	対老	対若	対調	対若	対老	対調
ネ(ー)	3	26	59	81	3	59
ノ(一)	40	 	-		•	. * * -

2.8.2. 解釈

- (a) SA が《対老》においてのみノーを使い、《対若》《対調》でネーに切換えていることがわかる。当該方言ではネーとノーとで待遇的な差がある(ネーはやわらかい表現)ようであり、SA におけるこの切換えも方言体系内での 2 形式の使用規範に基づくものと考えられる。この点で、方言体系内の使用規範によって形式が切換えられるという点で自称詞のケースと類似点がある。
- (b) YA はノーを 1 例も使用していない。若年層では使われなくなりつつあるのかもしれない。
- (c) ネーを頻用している YA だが、《対調》においては、間投助詞としてのネーは 1 例も使用が見られない。改まった場面では間投助詞の使用が避けられるようである。YA においては「親:疎=ネー: φ」というカテゴリカルな切換えが行われているといえよう。

2.9. アスペクト

2.9.1. 結果

〔表 16*1〕

	老(SA)			,		
	対老	対若	対調	対若	対老	対調
テイル系*2*3	-	•	7	15		46
ヨル・チョル	49	2	15	76	÷	-

^{*1} 表は、過去・非過去、肯定・否定の区別なく集計してある。

^{*2} YA の「テイル系」はテル、テマス、テナイの3 形式。YA 《対若》でのテイル系は 15 例中 13 例がテナイの形を取っていた。(《対調》ではテナイ9 例、テイル・テイタ 37 例)

^{*3} SA の「テイル系」はテオル 5 例、テアル 2 例。

2.9.2. 解釈

- (a) ここでも、SA:連続的、YA:カテゴリカル、という切換えの様子がわかる。
- (b) SA は、「テイル系」といってもテオル・テアルの使用しかなく、テイルは使用していない。このことからも、SA のスタイル切換えは方言体系内でのスタイル切換えと見ることができる。それに対して YA は方言と標準語という二つの体系間での切換えといえるかもしれない。

2.10. デス・ダ・ジャ・ヤ

2.10.1. 結果

〔表 17 デス・ダ・ジャ・ヤ*1〕

		老(SA)			若(YA)		
	対老	対若	対調	対若	対老	対調	
デス	-	-	44	-	-	168	
ϕ^{*2}	20	40	48	7	15	1	
φ + 文末詞	26	24	-	11	5		
ダ ^{*3}	· -	<u>-</u>	-	3	3	(3)	
ヤ	16	10	3	68	19	1	
ジャ	42	24	10	1	-	-	

- *1 集計には形容詞+デスの例、疑問文デスカは含めていない (形容詞+ダ/ジャ/ヤが非文となるため)。過去・非過去の区別なく集計した。否定形は数に含めていない
- *2 øは体言(名詞・形容動詞語幹)止め(文末詞もついていないもの)を表す。
- *3 YA 《対調》のダが () に入っているのはいずれも~トオモイマスの中に埋め込まれていた例でデスと置換関係にないため。

[表 18 デショー・ダロー・ジャロー・ヤロー]

		老(SA)			若(YA)	
	対老	対若	対調	対若	対老	対調
デショ (ー)	-	-	10	-		2
ヤロ (一)	1	1	-	•	30	•
ジャロ (一)	5	3			-	· • · · ·

2.10.2. 解釈

- (a) [表 17] を見ると、SA、YA とも、《対調》でのみデス形を使用しているという点は共通しているが、《対調》での非デス形の使用数に大きな違いがある。 SA がデス形よりも非デス形を多用している要因として、疎の相手 YF が年下であるとが挙げられる。デス形の使用には親疎だけでなく上下が関わっているのであろう。
- (b) SA《対調》のデスは、聞き手 YF に確認やあいづちを求めるような発話に多く 見られた([11] 参照)。ただし、確認を求める場合にはつねにデス形が用いら

れるというような規則的なものではない。

〔11〕 昔の小学校

64SA:nで 宿毛小学校は一、後nで、(YF:はい)えー それで。昭和十六年に、宿毛町と、古賀そん[村]が 合併ひた。(YF:はー はー はー)そえまで 古賀そん[村]じゃった (YF:ほん)沢田のね、あの、この、ま、(こ)こで ゆーと、竹田から、東ですね(YF:はい)沢田が一[川]。そーれで一沢田[川]で、鈴が一[川]、の領域と、(YF:ふん)で古賀村 ほんで宿毛ちょ、町と こがそん[村]と 昭和 六、十六年に 合併ひて。 (YF:はー。)ほnで それで。も一、宿毛、 尋常高等小学校。 ほえから、戦後。おーー その 中学校を 分離しよ と ゆーことで、(YF:ふん)ま あの、高等科 と ゆーもんが 中学校に 分離ひて(YF:ふん)三年制 と ゆーことになったわけですね。 (YF:はい) [シーと息を吸って]ま 変わった。

- (c) SA《対老》《対若》ではφ+文末詞が多用されているが、《対調》では1例も見られない。方言的な文末詞の使用を避けようとした結果とも考えられる。
- (d) YA は《対若》《対老》:《対調》=非デス:デスという、カテゴリカルな切換えといえる。

2.11. マス

2.11.1. 結果

〔表 19*1〕

		老(SA)			若(YA)	
	対老	対若	対調	対若	対老	対調
マス	-	-	50	-	-	55
φ	80	48	23	122	20	1

^{*1} 表は肯定・否定、過去・非過去の区別なく集計してある。 φは、動詞、助動詞などの非マス形の集計。

2.11.2. 解釈

(a) § 2.10.で見たデス形と同様、SA、YA とも《対調》においてのみ丁寧体マス形を使用している。《対調》での非マス形の使用状況もデス形の場合と似通っており、YA がカテゴリカルな切換えを見せているのに対して、SA は《対調》でも非マス形を使用し、連続的な切換えとなっている。

3. まとめ

ここまでの分析をまとめると、

(a) SA は連続的な切換え、YA はカテゴリカルな切換えとなっている項目が多い

と言うことができる。また、SA に比べると YA は方言形と標準語形とを切換えている項目が多い。SA と YA に見られるこのようなちがいから、

(b) SA が方言体系内での「スタイル切換え」を行っているのに対し、YA は方言と標準語という二つの体系間での切換え、いわば「コード切換え」のような切換えを行っている

と見ることができそうである。当該方言における切換えの様相から、方言専用の状態 から、方言と標準語という二つの体系を場面に応じて使い分ける「二方言併用」の状態へと移行していることが窺える。

4. 展望

今回は形式に注目して分析を進めていったが、各形式の用法ごとの分析、あるいは類似の用法を持つ複数の形式の分析を行うことも必要である。そのほか、同一談話内に現れる切換えの様相について分析することで、特に SA の「連続的な切換え」の詳細が明らかにできるだろう。

また、この資料を用いて、方言そのものの変化をみることもできる。現に、SA・SCと YA・YCとは、同じ幡多方言話者とは言え、その使用する方言形式に著しい違いの見られる項目もある。スタイル切換えのベースとなるそれぞれの方言がどのようなものであるかも、詳細に見ていかなればならない。

今後、他方言のスタイル切換えの様相と比較することで、幡多方言におけるスタイル切換えの普遍性と特殊性が見えてくるのではないかと考えている。

たかぎ ちえ (大阪大学大学院生)

takagic@h9.dion.ne.jp

[老一老]

収録日時:2000年5月3日

収録場所:SA 宅

話題:少年犯罪 → 子供の教育 → 大学院の制

度 → 教育勅語 → 年金と社会保障 →

子供の教育 → 子供の頃の思い出 →

自治会 → 酒量と健康

015SC: あんな テレビー 人を 刺したじゃ ーなんじゃ かんじゃ つーがー テレビで 出て 見てー、(SA: なんのこ たーない)そいつを 習うがも あれば、また 反省するがも おるけん、どちらとも 言えんけんど、

016SA: そーよ それ 見て まー いかん とゆー ことを 反省ひて、するがも ま、考えに よっちゃー、の一、

017SC: ある 話やけどねー。

018SA: べ、勉強にも なるろ。(SC: んー) な るが、しかし、妙に 今は、おかしーこ た ないかい。

019SC: このね、大学院、と ゆーものはねー、 (SA: んー) {スーと息を吸って} 大学 科を 出て、それから また、何年か 二年か。

020SA: 二年 四年。

021SC: 四年? あるかねー。

022SA: 四年じゃけんど ここは 五年にかー

023SC: ほー。 高知は 二年じゃろん。

024SA: 四年。(SC: 高知?) 今 よ、修士、ア キラ君は 二年かい。

025SC: 二年じゃないか? お、(おらの子も) 出た ゆーち ゆーたぞ。なんちゃん ならん。出たち。

026SA:出た?

027SC: うん。

028SA: 二年 ほいたら 修士課程、出たがじ ゃ (ないか)。

029SC: ほーじゃろ。何や 知らんけんど、

030SA:修士課程との一、博士課程と 二段階

に あるもんと?

031SC:んー。なんちゃん ならん。出たち。

032SA: んー まー、あおー のー。行て。わしんくのがもー あのー、池田[大学名]でー あのー、修士課程。博士課程はもー 銭 続かんけん よー 行かざったけんどのー。(SC:うん)修士課程はい、行ちょーがよ? ほんで 博士課程、出ちょらんけん あのー 学位取るに、やっぱー 人よりか 一年もよーけ かかったのー。(SC:んー)ほんなもん と。

033SC:まー あ、今の世の中とうもな、もっと がっこの しょうがっこから、あー 父母に 孝に けーてーに [兄弟に] 優に と ゆー あの、勅語を 教えたら えー と 思うけんど**(SA: モー モー) あれん ゆーたら、

034SA: あれがのー。

035SC: いかざったねー。

036SA: いかざった あれー あれは なんと ゆーたと あ、わしも このー 前 ずっと 前にも あの、話した時ん あるがよ なんと ゆーたち、あれは えーこと 書いちょーがのー。

037SC: 書いちょる。それを、先生がそれを 嫌 うけんねー。

038SA: 先生が 嫌うけん いかんがよ。(SC:んー)あれは、何故 いかんか ゆたらー 「朕が 思うに」 あの 朕が思ーたがー いかんがやけん {笑} (SC:笑)大体は一、あこ いかんがや (SC:笑)後は えーがぜ? (SC:えーよに 思うけんど)夫婦 相和し (SC:おー)兄弟に 優に。(SC:うん)朋友を 信じ、(SC:うん)の一。(SC:うん)悪いことは 一つも 書いちょらん。

039SC:書いちょらん。あれを やったら {息をスーと吸って} 先生が それは、てきのまる [日の丸] を 掲げるがを 反対ひたり、{息をすーと吸って} あれを、やるがは 反対ひたり ちっとも い、先生の、(SA:ほんじゃけんね、) あれん なっちょらん と 思うけんど。

040SA: うん。今の先生が、

041SC: もー お前 内閣そーんだい [=総代]

[老一若]

収録日時:200年5月2日

収録場所:SA 宅

話題:趣味 → 旅行 → 戦争 → 祖母 → 親戚

→ 兵役 → 結婚 → 昔の押ノ川 →

健康 → 病気

337YA:ま そら そ いつ 結婚したが?

338SA: ちゃんーと 忘れ いつじゃっつろん

ねありゃー。も、

339YA: 若かったがやろ けど。

340SA: そら わか {笑}、も一、五十年 こん

ねん [今年]、

341YA: にじゅ、え、二十代?

342SA: うんーニ十一一、七 数えの七じゃけ

ん、ろっか [六か]。

343YA: はー。

344SA: 二十六と ほいたら 二十、い、一じ

やろか

345YA:戦争 終わってからやろ?

346SA:戦争 終わってから。二十七、六年じ

ゃろかね。あれ 見たら、{スーと息を

吸って}ん、あのねー、もー け、も

ー いづれ、こんねん [今年] か 来

年かー 金婚式じゃ。

347YA: へー、あ そーなが?

348SA: うん。

349YA: 金婚式 て な、何年かね。

350SA: 五十年。

351YA: 五十年?

352SA: うん。

353YA: なかなかやね。

354SA: そーよ?

355YA: ふん。なかなか。なんか するが?

356SA: なにね?

357YA:金婚式って。

358SA: 金婚式 届け したらねー、

359YA: なんか くれるが?

360SA: し、んー しー、市の福祉ーセンター

ーでー、

361YA:表彰?

362SA: 記念してもろーて、(YA: あー。) なん

かー、祝辞ー、か、なんか 記念品 く

れる ゆたぜ?

363YA: 出すが?

364SA:何。

365YA: 出すが? 出さないけん。

366SA: 市、市から くれるがよ。

367YA: そーなが、出さないけんわけ。

368SA: じゃけん こっちん 願い 出さない

かんがよ。

369YA: 出す、出すがやろ?

370SA:んー 出ひても え 出さいでも え

どーじゃち かまんもん。

371YA:まー 別に それは いっか。

372SA: んー? どっちでも かまん。

373YA: あー。

374SA: んー じゃー そ おばーちゃんが、

出ひたいゆたら、

375YA:ま ばたばた ばたばたしよー**

376SA: 出ひたい ゆたら あの、出ひたら え

ーわ。じーちゃんは どーじゃち か

まん ほんなこた。

377YA:{笑} でも だいぶ 尽くしてしもー

たで。

378SA:何。

379YA:だいたい 話したで。

380SA: ほか。

381YA: じゃーね、なんか あるやろかね。ん ー。{間} ここらへん て 全部 あ

れやろかね 変わってないか 押ノ川

昔と 今でも。たいして。

382SA:かーった [変わった] ぜ?

383YA:ここ え、押ノ川やで?

384SA: んー 今 さっき 話したよーによ?

だいたいー 五十三戸 ** 長いこと 続いたがえ、(YA:あー。) 今ーー

と なんば 百? 区に、入っておる、

となかは日:区に入りてわる、

戸数だけ(で)も 百二十六戸 ゆち。

(YA:あー。けど、)ほんで まだ 区 に 入ってな、ないものが だいぶあ

るぜ? 別に あの 夕陽丘団地は

(YA: あー) 別ぜ? あこいー 今、 385YA: そらー そっちゃ、あそこは 多いけ

んね。

386SA: あ、あこーが 夕陽団地が 今、(YA:

今、) もー 五十戸 越えたがじゃろ。

387YA: うん 五十戸 越える**

[老一調]

収録日時:200年5月3日

収録場所:SA 宅

話題:昔の押ノ川 → 言葉の変遷 → 子供の教

育 → 男女同権 → 言葉の違い

086SA: だいたい 一般的に (YF: うん) こー 聞きますが、{シーと息を吸って}そこ ら辺りが ちょっとー やっぱしー。 ことばが 変わるー 人間が 変わる ー。変わる 変わる と ゆーことの に。なって。(YF: んー) んー 今も ー その、{舌を打って} 先輩とも 話 ひた一。(YF: ふん)教育勅語は、あ の 先生 ま 先生の問題で、(YF: ふん)先生が 教育勅語は いかんと。 (YF: ふん) ゆー。(YF: ふん) こと ー、まー ふたっで [二人で] 話ひ た、nで あれは たしかに えーこ と 書いておると。(YF: ふん) きょ ーいくちょく [教育勅語] と ゆー ものは。書いておるが一、しかしあ れは あの、{シーと息を吸って} 朕が 思うたけん いかんありゃ。

087YF:はい。 088SA:ね。 089YF:はい。

090SA: 夫婦 なかねー [仲のええ] しよ 朋友は一 信じあえ、兄弟は なこしょ [仲良うしよ]、えーことばっかい 書いちょーぜ。(YF:はい、) おのれがーあのー あれで 仕事に 励め とい、 (YF:はい) んど 残念なことは あ

りゃ 朕が思うたけん いかんがじゃ。

091YF: ふん ふん。

092SA:{笑} 093YF:{笑}

094SA:ま そーゆーて ま 二人が 話ひた。

095YF: はい。は一。

096SA: ほnで 今の 先生は、(YF:はい) それが いきませんよと。(YF:はい) 教育勅語は いきませんよ と。あり ゃー 教育勅語や、教育憲章か なん

か ゆーたら かまんろーけんどー、 (YF:はい) 今の先生が どーも、そ の、おし、おかしー と。(YF: ふん) うん。(YF:ふん ふん) 先生が お かしー したがって その、父兄も おかしー。(YF: ふん) わ、わたした りーや [私たちが] ゆい、あの ゆ ーとですよ? (YF:はい) おかしー。 (YF: はー) んー そnで、{シーと 息を吸って} そーゆーことでー、(YF: うん) んー。ことばが 変わる 人が かわ ずーっと 変わってー まー 結果 どーなろーけnど、{シーと息を 吸って} そんなことじゃなかろかねー ゆてー ま、(YF:はー) ほnな気持 ち 持っておるわけですねー。(YF: なるほど) んー 難しーねー。

097YF: じゃ、SA さんが 昔ん時は一、その一 親とか一、先生とか 先輩に 対して 一、俺 と ゆわずに一、(SA: いー ませんよ) どんな言い方一、して一

098SA:ま ここらでは 親に だいたい わし じゃと わ、こら わし ゆわーね。 (YF:は はー)わし と ゆーも ことー 言いますよ?

099YF:はい。

010SA: ま、あれや、わたし とゆーたら ほんとでしょーけどねー。

101YF: はい。

102SA: あ 先生には 言いましてねー (YF: はい) わたし と ゆーことは、(YF: ふん) うちでは わし。

103YF: うちでは わし。

104SA: うん、うん、うー あの一、兄、兄とか 姉には わし。(YF:ふん) 妹には おら。(YF:ふん ふん ふん) *** 下のもんには 目下のもれに自分よりか ひたのものには おら。 (YF:おら。は一)今の人は 俺じゃ言わね。(YF:はい)で 今の奴は 上も 下も 俺じゃけん。(YF:俺、はい) nで、兄から 姉さん、親に対ひては わし。(YF:ふん)うん、こ ゆー、ことです**ね。(YF:は一)今その区別ん ないつね?(YF:ないで

[若一若]

収録日時:2000年5月4日

収録場所:YA 宅

話題:友達 → 部活 → 高校生活 → 友達 →

高校生活 → ゲーム → 友達 → 部活

187YC:カッツ [ニックネーム] ね カッツと

も 俺 会おー、会おー、

188YA:おーてない? 俺、

189YC: おーてないよ?

190YA: え、え、あの 春、卒業式から?

191YC: うん、卒業式以来ね おーてない。

192YA:あ 今度 行かないかんね 剛んとこ

に。俺 剛しか お、も一 これで 剛 一ぐらいや おーてないが。

193YC: あ そー

194YA: あ おーた。あいつ。

195YC:おーた?

196YA:あの キャンプに おったもん。一回。

197YC: なんじゃ それ。{笑}

198YA: なんか あいつ あれやろ。音楽部か

なんか 入っちょーろ。

199YC:音楽部 入って、

200YA:ん びっくりし、

201YC: 髪型ん 変わっちょーねー。

202YA: うそー、見てないけど、

203YC: 髪型 後ろ こんなん なっちょーも

ん {笑}

204YA: そーなが?

205YC: あー でもねー なんか、

206YA: え、あ、あれって 音楽部、おー び

っくりしたーん [びっくりしたがね] 最初、何 入った ゆーたら 俺き、

てっきり き、帰宅部かなー と 思うたがって。

207YC: あー。

208YA: したら なんか 音楽部とか ゆーて

209YC: いや お前 なんか 入ったが?

210YA:俺?

211YC: あん。

212YA: ないもん。

213YC: ないが?

214YA: うん あの 何、そーゆー 何 試合

関係の一部活は なくて クラブみたいなが あるがって (YC: あー) 小学校みたいな (YC: あー) あれ、将棋 入った。あの テニス 入りたかったがって ほんま。 (YC: あー) やけどねー なんか テニスねー、じゃんけんで 負けた {笑}

215YC:は? 何 それ。

216YA: {お茶を飲む} いっコート [1 コート] しか ないがって。

217YC: いっコートしか ないが?

218YA: そー やけんねー、やけん、どーして

も 人数制限 あるが。

219YC:え 清水 [学校名] って どんなとこ

なが?

220YA:あん、どんなとこって 言われても 愛

媛ながやけど。

221YC: あー、あー 愛媛なが? 愛媛なが?

222YA:大洲市って 知っちょー? 知らんね

223YC: {お茶を飲む} 知らん。

224YA: やけん 将棋ながって 地味な。

225YC: 将棋か一。

226YA: そーやね [そーいやね]、****、

受けるがってあの、

227YC: あー 何 何 何、何。

228YA:甲斐高[学校名] 知っちょー?

229YC: あー 知っちょーよ?

230YA: あそこからねー (YC: うん) 来た奴 お るがって。(YC: うん) 山田って ゆ

ーが、YC ちゃんと キャラ 同じで

{笑}

231YC: なーんで どんなキャラながよ。

232YA:{笑}そっくりやもん だって。将棋 む

ちゃくちゃ、

233YC: そっくりって 今の 俺のキャラを

知っちょーがか? 知っちょーわけな

いが。

234YA: いや、昔のキャラ。

235YC: 昔のキャラか。

236YA: や そっくりなやって [=そっくりな

がって 将棋も むちゃくちゃ うま いがってー。(YC:ふーん。) まー 頭

も えーがやけど 甲斐高やけん。

237YC: ふーん。で?

[若一調]

収録日時: 2000 年 5 月 2 日

収録場所:YA 宅

話題:高校 → 部活 → 寮生活 → 中学時代 →

言葉の違い → 趣味 → 街の活気 →

趣味 → 家族 → 修学旅行・遠足 →

家族

043YF: なんか クラブとかは やってるん、

044YA: あ、クラブですか。

045YF: はい、

046YA: あ 一応、あの、クラブ ってー ゆ、

部活ーみたいなんは ないんですけど

一、(YF:はい)クラブって 週に 一

回 あるんですけど***

047YF:あの それは、義務で やらないとい

けないやつ。

048YA: あー みんな 入ってるんで (YF: は

い)あ いちお 将棋に 入ってます。

049YF: あ 将棋。

050YA:はい。

051YF: はー 強いんですか。

052YA:やー そんな 強くないですけど。

053YF: {笑} 僕も 将棋クラブに 小学校ん時

入ってたんですよ。

054YA: あ はい。

055YF:でー でも なんにも しなかったで

すね。

056YA: はい。

057YF:{笑} nな、い い、将棋クラブ 入っ

た 何、将棋してるんですか いつも

その時間は。

058YA: あ、あー、あー あの、週に 一回ー、

059YF: その時間は、

060YA: 一時間だけ その時間は しょー、ほ

かの部も あるんですけど、(YF:は

い) その時間は、将棋 入ってるんで

将棋してますけど。

061YF: はー ほかに どんなクラブが。

062YA: えーっと、ソフトとー、

063YF: ふん。ソフト って ゆーのは、ソフ

ト、ボール。

064YA: あ、ソフトボール、(YF: ふん) と、

バスケットボールと、テニスと、え あ と、弓道と、(YF: ふん) あと、コー ラスとー、(YF: んー) まー だいた い そんなもんですよね。

065YF: はー、え なんで 将棋に したんで

すか。

066YA: いや。あのー ソフト、とか あんまい 野球関係 苦手なんで、(YF:は ー、) それでー、いや ほんとは、テニスに 入、りたかったんですけど、 (YF:はー)あ なにか、人数、が ちょっと てんいん[定員] オーバー、

(YF: はー、) に なって、しょ、

067YF: 人気やから。

068YA: あ、(YF: はー) 将棋に なったんで

すけど。

069YF: へー。あ、じゃ、弓道とかは?

070YA: あ 弓道、やったこと ないんで。

071YF:でも おもしろいらしーよ。

072YA: あー、そーですかー。

073YF: {笑} え で それは、年が 変わるご とに一、クラブ、(YA:あー) 変えら れんの、(YF:あ、) それとも 三年間 ずーっと 将棋、

074YA: あ、一年間一で、あの、一回 変えれ ます、けどあの、(YF: はー、は) ぜ、 前期 後期 って 分かれて。

075YF: あ じゃ、合計、六つ、(YA: あ は い)入れる って こと。

076YA: あ はい。

077YF:最大で。

078YA:はい。

079YF: え ずっと 将棋 入っててもいーの。

080YA: あ はい。

081YF:は一。来年 らい、後期は、(YA:あ、)

何に するんですか。

082YA: あー 後期は テニスに、

083YF: あー もー 一回。

084YA: しよ、あ はい。

085YF: また 満員やったら、どーするんです

か {笑}

086YA:やー、{笑}わからないです(YF:{笑})

その時考えるけど。

087YF:は一。で 寮 って ゆーのは、学校

の、中に。あるんですか。